

2024(令和6)年度 自己評価・学校関係者評価書

双百合幼稚園長 宗 千景

1 教育目標

目標～神さまに愛されていることに気付き、神さまと共に歩む子ども
 ☆自分で考え 行動できる子ども
 ☆元気に活動する たくましい子ども
 ☆心情豊かな子ども

2 本年度の重点課題

- 1 教職員が互いに切磋琢磨し、研修の共有などを通して資質向上を目指す。
- 2 園地の環境を生かしたインクルーシブ保育と、自発性を引き出す環境構成の充実を図る。
- 3 「全体的な計画」の「重点的に取り組む教育の柱」参照

3 評価項目の達成及び取り組み状況(教員 17 名)

◆a;十分達成されている、b;達成されている、c;取り組まれているが成果が十分でない、
 d;取り組みが不十分 ※%は小数点第1位を四捨五入の為100%超の場合有

◆評定A;自己評価 a・b が 80%以上、B;a・b が 60%以上、C;a・b が 60%未満

	評価項目	評価内容	評価	集計	%	評定
1	キリスト教保育	・朝礼・食事・降園時の祈りや、宗教行事を通して、「双百合の4つの心」について考えることができたか。 ・日々の生活や「宗教の時間」を通して、職員自身が神さまの愛を感じ、理解を深めていく努力が出来たか。	a	7	41	A
			b	8	47	
			c	2	12	
			d	0	0	
2	教育課程の編成・実施及び特色のある教育の推進	・年間指導計画や月カリキュラムを作成し、学年毎に毎月の評価・改善を図ったか。 ・園地の環境を活かした教育活動を進めるとともに、食育の推進や ICT 教育の理解に努めたか。	a	3	18	B
			b	10	59	
			c	4	24	
			d	0	0	
3	保育の計画性	・発達段階に合わせた教材選びやテーマを定めた系統性のある保育を計画し、導入や内容にも専門性をもって工夫に努めたか。 ・ねらいに沿った保育内容の計画と、子どもの状況に応じた臨機応変な対応をバランス良くとることができたか。	a	3	18	B
			b	9	53	
			c	5	29	
			d	0	0	
4	保育のあり方 幼児への対応	・個々の傾向や特徴を把握し、配慮や援助が必要な子どもの情報を、教職員、各機関、保護者との間で共有することができたか。 ・子どもへの対応について、学年や多くの教職員で共通理解しながら進めるよう努めたか。	a	7	41	A
			b	8	47	
			c	1	6	
			d	1	6	

5	安全への配慮	<p>・安全教育年間計画に基づき、危機管理マニュアルを作成し、救命救急講習を受講するなど意識を高めたか。</p> <p>・毎月の訓練や点検で、安全への意識を高め、具体的な行動をとれるよう努めたか。</p>	a	7	41	A
			b	8	47	
			c	2	12	
			d	0	0	
6	健康管理	<p>・保健計画に基づき、手洗い・うがいの習慣化など基本的な生活習慣を養うよう努めたか。</p> <p>・食物アレルギー等の健康管理を保護者や給食業者等と連絡を取りながら進めたか。</p>	a	10	59	A
			b	6	35	
			c	1	6	
			d	0	0	
7	幼少の接続	<p>・小学校生活に安心感と期待感を得られるような活動を取り入れるなどして、円滑な接続を意識したか。</p> <p>・小学校との学びの接続を図るにあたり、小学校の教育内容(スタートカリキュラムなど)の理解に努めたか</p>	a	0	0	C
			b	6	35	
			c	8	47	
			d	3	18	
8	教師の専門性と資質の向上	<p>・園内研修会を計画的に行い、更に外部研修の成果報告等により情報交換ができたか。</p> <p>・専門家(カウンセラーなど)による教育相談や子ども支援の研修により、児童理解を深めることができたか。</p>	a	4	24	A
			b	12	71	
			c	1	6	
			d	0	0	
9	保護者や地域への対応	<p>・保護者には丁寧、誠実に対応し、日常の電話や定期的個人懇談等で相互理解に努めたか。</p> <p>・地域の方との交流の機会をもち、出来ることをすることによって、地域貢献を図ったか</p>	a	10	59	A
			b	6	35	
			c	1	6	
			d	0	0	

4 達成状況について(自由記述)

◇保育について

- ・自由保育や日々の保育の中で、園地(特に裏山)を活用した保育を考え、子どもたちの遊びの中にたくさん取り入れられたと思う。
- ・支援が必要な子どもの保育者間の情報共有や、保護者との連携はしっかり取れていたと思う。
- ・援助や配慮の仕方について情報共有をすることができ、子ども理解を深めることができた。
- ・子どもの対応についてどのように関われば良いか悩むこともあったが、一人で抱え込まず補助の先生やまわりの先生方の手を借りながら援助方法を模索し、関わっていくことが出来た。
- ・今年度はインクルーシブ保育を意識しながら保育を進めていくことができた。先生たちの保育観が広がり、これまでとは違う視点で物事を考えるようになってきている。
- ・今年は外部との交流や公開保育の研修など、園外での活動が多く、保育や学びがとても充実していた。
- ・自分の保育を振り返ると、取り組みが不十分だったり成果が十分でないことが多かった。
- ・日々の保育の振り返りをする中で、工夫して保育を進めていくことができた。
- ・小学校との接続に関して、北松尾ふれあいフェスタに参加したことが一歩前進するきっかけ作りとなった。これからの期待が高まっていると思う。

◇研修について

- ・今年度は研修にもたくさん行き、その都度職員間で情報共有ができたと思う。
- ・園内外の研修や報告会などはよく行えたと思うので、今後活かせる保育ができるよう努める。
- ・今年度は園外研修(公開保育)に積極的に参加し、他園の環境や取り組みの様子などを実際に見たり、他の先生の報告を見聞きすることで、他園を知るきっかけになり、良かった。
- ・外部研修の成果報告の機会が増え、他園の保育を知ることができた。取り入れられるところは参考にしながら、環境や子どもの姿に合った方法で取り入れていきたい。

◇宗教について

- ・毎朝のお祈りやキリスト教の活動、職員宗教で神さまについて触れる機会が多いため、身近に感じる事ができた。
- ・職員一人一人が意識を持って取り組んでいたと思う。
- ・今年は聖歌をたくさん歌ったり、十字架の道行きについて子どもたちに伝えたりと、去年あまり出来なかったことを意識して行った。
- ・保育者自身が神さまの愛を感じ、お祈りや保育を通して子どもたちに伝えることができたように思う。

◇その他

- ・今年度はお隣の「ここかえるからくに」さんへの訪問が実現した。利用者さんたちは子どもの訪問をとて喜んで下さったので、元気をプレゼントできたと思う
- ・食育やICT教育が始まったが、ねらいを達成できているのかはわからない。しかし、前年度よりは意識が高まってきていると思う
- ・保護者対応については毎年丁寧に対応している。そのおかげで「ここは丁寧だから」と入園を希望される方が増えている。

5 今後の課題について(自由記述)

◇宗教について

- ・いまだにキリスト教保育とは何か、という点にあやふやな部分がある。具体的な言葉かけや活動について全体で話し合いの機会を作って欲しい。

◇保育などについて

- ・来年度は幼少接続のための取り組みを具体化し、実現する。
- ・小1のスタートカリキュラムの理解を深める必要がある。
- ・地域交流を更にすすめて、プレゼントなどもできたら喜ばれるのでは。
- ・研修で学んだことを具体的に保育に活かす。
- ・個別支援児への対応について全体で情報共有する。(限られた先生だけしか対応できないということがないように)
- ・今年度の良かった活動を来年度も継続することが重要だと思う。
- ・クラスの楽しい取り組みを他クラスでも共有できるように工夫したい。(動画や写真の共有など)
- ・職員間のミーティングで、情報共有や問題解決を図りたい。時間の確保が課題である。
- ・園地の活用に関して、知識不足を感じるので、研修などで学びを深めたい。
- ・初めての担任で戸惑いもあった。保育の引き出しを広げていきたい。

6 学校関係者評価

◆宗教について

・毎日のお祈りや宗教行事を通して、ふたよりの4つの心は常に大切にされていて、子どもたちにも共有できていると感じる。

◆保育などについて

・他学年の先生も名前を呼んでくれたり声をかけてくれたりするので、子どもはどの先生にも安心して頼ることができている。

・遊びの時間をたくさんとっていて、その中で学びながらものびのびとしていていつも楽しそう。

・3学期の縦割り保育では、他学年のお友だちも増えた。お互いに思いやる心を更に育ててほしい。

・縦割りの保育の時も情報共有がされていて、先生と園児とのやりとりが楽しい雰囲気だった。

・裏山や園庭で土に触れ、季節の変わり目を肌で感じて成長した子どもの心は穏やかでのびのびと成長している。

・子どもたちが自分の意思で選んで遊ぶことができる「自由保育」は双百合幼稚園ならではの保育である

・自然豊かな環境の中、裏山でのびのび遊ぶ環境を今後も維持して欲しい。

・英語や宗教、体育など、専門の先生の指導があるのは魅力的。

・インクルーシブ保育という言葉が溢れる前から、子ども一人一人を「宝」とし、クラス関係なく保育者みんなの目と心で見守っていた。その信念が今の保育にも活かされている。

・ベテランの先生が若手の先生をフォローしつつ、園内連携を行っていた。

・研修などにたくさん参加し、新しいことを取り入れたりなど、日々の努力が伺える。

・いつも丁寧な対応に安心感を覚える。

・音楽発表会で、園歌を手話付きで発表してはどうか。歌の時は大きな声より良い表情の方が重要。

・評価の低かった「教師の専門性と資質の向上」が今年は上がったことは評価できる。言葉かけが優しく、担任以外も名前を呼んでくれて、放送がかかると静かになる指導は素晴らしい。自信を持って。

◆その他

・食べることにに関して「よく噛む」ことを伝えて欲しい。あごの発達や集中力に影響する。

・食材のお話や実際に畑へ行って知ることは食事に対する「感謝の心」を養ってくれると思う。職員室でお味噌汁を作ってふるまうなどの企画もよかった。

・今年はより食育に力を入れていると感じた。季節の野菜を育てたり、収穫した野菜を使って給食のメニューにいれることは、食や健康に対する興味関心を育めるので、今後も継続して欲しい。

・ふれあいフェスタでの合唱は好評だった。継続して参加して欲しい。

・ふれあいフェスタは園以外の場所で団体行動する機会であり、通学路を保護者と歩く練習にもなった。

・結婚や出産で現場から離れる職員が多い職種だが、働きやすい様子が伺え、「双百合の保育」に欠かせない職員を大切にしていると思う。

・預かり保育などで職員の負担が増えることで、園の強みである「丁寧な保育」がおろそかにならないように対策を願う。職員が安心して働ける職場であることが、園児に対する十分な教育につながる。

・今年度、保護者会役員と園は積極的に意見交換ができた。子どもたちのよりよい園生活に貢献できて嬉しかった。保護者にもアンケートなどを行ってほしい。

・年少以上の保護者も、担任とアプリで連絡がとれるようになり、日々の報告・連絡・相談が便利かつ手軽になった。今後もアプリの活用に期待する。

2024年度 自己評価集計結果考察

1 キリスト教保育

園内にシスターと御聖堂が不在である中、自分たちなりにキリスト教保育の理念を大切にしようとする姿勢が評価に表れている。お祈りや聖歌など身近に取り組めることを真摯に行っている。今後も、職員自身の中に神さまの恵みを感じることができるよう、職員宗教や生活の中で気づきを共有する。

2 教育課程の編成・実施及び特色のある教育の推進

今年度は園地(裏山や畑)の活用に積極的に取り組み、子どもたちの自発的な遊びや、遊び込みを引き出す環境構成の工夫をすることによってインクルーシブな保育を目指した。いまだ発展途上にあるものの、確かな手応えは感じていると言える。

3 保育の計画性

若い保育者たちが導入の工夫の必要性や、振り返りの重要性を感じ、先輩保育者たちの力を借りながら保育に取り組む姿がある。子どもの姿に応じた臨機応変と PDCA のバランスをうまく取ることが難しく、ベテラン保育者が若手を支えながらリーダーシップを発揮し、チームワークで保育を進めているところである

4 保育のあり方 幼児への対応

子どもへの丁寧な対応は当園の強みであると常々意識しているため、個々の評価は高いと思われる。しかし更に、子どもの情報を職員全体で共有し、「園の子ども」として全員で育てるという意識が必要である。今年度はクラスの枠を超えた自由な行き来にも取り組んでおり、情報共有の機会は増えている。

5 安全への配慮

毎月の訓練において様々な場面を想定した訓練を取り入れることで、あらたに防災や防犯、安全に対する緊張感をもち、意識の高まりを感じることができていると考えられる。

6 健康管理

コロナ禍で定着した健康習慣を低下させないように指導しながら、感染症予防を行っていると言える。また、今年度あらたに取り組み始めた給食室との連携による食育によって、食に関する興味を引き出し、子ども自らが健康な身体を作り上げられるようにすることが次なる目標となる。

7 幼少の接続

本項目について、今年度は具体的な活動をカリキュラムに取り込むことが出来なかった。しかし、北松尾校区のフェスタへの参加や、小学校と交流をすることができたので、来年度は更に系統性をもった計画を立て、今年度の反省を活かすことが求められる。

8 教師の専門性と資質の向上

昨年度の反省から、今年度は積極的に公開保育や外部研修に参加し、持ち帰った学びの共有を行った。他園の保育から刺激を受けて具体的に保育の見直しを始めたことで、充実感や達成感を味わうことができたと言える。昨年度、「研修と研究」項目で C 評価であったが、今年度は本項目に組み込んだ研修について、a と b で 95%と一気に評価を上げることができている。

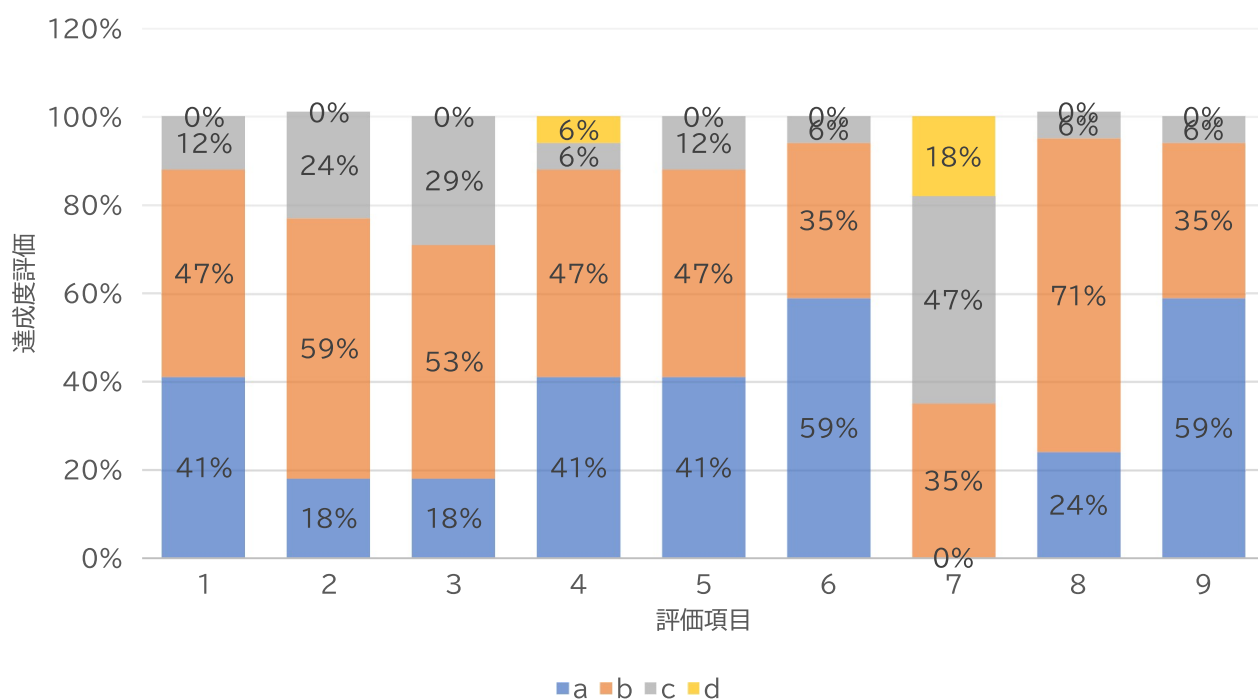
9 保護者や地域への対応

本項目も ab 合わせると 94%と高評価である。保護者への対応には「誠意を持って」が信条であり、常に子どもたちと同様に祈りに覚えている。今年度は更に地域交流として、校区のフェスタへの参加や老人福祉施設への訪問なども企画し、自分たちに出来ることで地域に貢献する意識を高めることができた。

(まとめ)

今年度は、園地の活用によってインクルーシブな保育を目指し、実践をスタートすることができた。また、自発的な遊びを引き出す環境構成のヒントを他園の公開保育から学び、試行錯誤しながら改善に取り組んでいる。このような具体的な行動をお互いに協力しながら団結して行うことができたことで、職員が充実感や達成感を味わいながら保育に取り組めていることが読み取れる。更に昨年度の反省として上がっていた縦割り保育の充実にも着手し、特に3学期は新しい試みによってねらいを達成しようとしている。これらの活動を、持続可能な活動にしていくことが、来年度の目標となる。また、「7 幼少の接続」については取り組みが不十分との課題が残った。今年度の小さな一歩をきっかけに、来年度は停滞していた幼少接続のための活動と、SDGsの取り組みを本格的に再開したいと考えている。

自己評価集計結果



列1	a	b	c	d
1	41%	47%	12%	0%
2	18%	59%	24%	0%
3	18%	53%	29%	0%
4	41%	47%	6%	6%
5	41%	47%	12%	0%
6	59%	35%	6%	0%
7	0%	35%	47%	18%
8	24%	71%	6%	0%
9	59%	35%	6%	0%